

生誕450年

伊達政宗の生涯をたずねて

第8回

仙台市博物館 学芸企画室 明石治郎

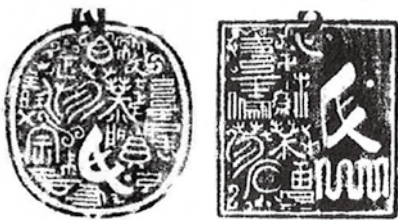


伊達家は藤原氏

伊達家は、陸奥国伊達郡を名字(家の名)の地としていましたが、もともと藤原氏の一族です。そのため、「伊達政宗」は然るべき場合には「藤原政宗」というように、氏の名を用いて表されました。また政宗は「藤氏政宗」(藤氏は藤原氏のこと)や「藤原氏」を印文とする印章を用いています。これらの印章が使われた初例は、慶長五年(一六〇〇)一月から翌年正月にかけてです。

羽柴越前守から松平陸奥守へ

その頃の政宗は、公的には「羽柴越前守」、あるいは「大崎少将」を称していました。これらは以前に豊臣秀吉から与えられた呼称



伊達政宗の印章
左:印文「藤氏政宗」、右:印文「藤原氏」

です。羽柴は秀吉の名字であり、越前守と少将は朝廷の官職名です。

この当時、官職はすでに有名無実化していましたが、最高の官職である関白に就いた秀吉は、自らを頂点とする武士の序列化に利用しました。そして、秀吉政権下では、武士たちは本来の氏をやめ、秀吉が新たに創った豊臣氏へ改姓した上で、官位が授けられました。「朝廷の出ず任命書は氏の名で記されるものでした」。その上で、秀吉の一族のほか、一国規模以上の領地を持つ大名を中心に羽柴の名字が与えられたようです。政宗も豊臣氏の羽柴家に組み入れられていたのです。

さて、秀吉は慶長三年(一五九八)八月に没しますが、政宗はその翌年に徳川家康と従属的ながら同盟を結びます。家康は慶長五年九月の関ヶ原合戦で勝利を得て覇権を握り、政宗はその年の末から翌年初めに仙台の城と町の建設にかかります。その頃、家臣や領内への文書に「藤氏」の印章が使用され始めるのです。公的には羽柴を称する一方で、内向きには藤原氏であることを主張し、豊臣氏の名字という羽柴の本来の意味を否定していたようにみえます。

この状況が変化するのは慶長一三年冬のこと。慶長八年に幕府を開いた徳川家から政宗に松平の名字と陸奥守の称号が与えられたのです。松平は徳川家のもとの名字です。徳川

家は名字を与えるにあたって、本来の氏の変更は求めませんでした。そのため、政宗は藤原氏として徳川一族の名字と、陸奥国の大名としての名譽心にながう称号を得たのです。「松平陸奥守」は江戸時代を通じて歴代仙台藩主の称号となります。

大崎少将から仙台宰相、そして黄門へ

「羽柴」や「松平」を称した有力大名は、領地を代表する地名を官職に冠する呼称も持ちました。政宗の「大崎少将」もこれにあたります。この官職は昇進する官職でした。

政宗は、天正一九年(一五九二)二月に「羽柴越前守」とともに侍従という官職を得ますが、居城を米沢から大崎地方の岩出山に移されてのち、慶長二年(一五九七)に侍従から少将に昇進して「大崎少将」となりました。「大崎」は、政宗が仙台を本拠としたのちも変更されず、大坂夏の陣で豊臣家が滅亡した直後の元和元年(一六一五)閏六月、政宗が少将から参議(中国風には宰相)に進んだとき、「仙台宰相」となります。ようやく、政宗から豊臣大名として名残が消えると同時に、政宗の領地の名称が公式に「大崎(領)」から「仙台(領)」となったと考えられます。

政宗はその後、寛永三年(一六二六)八月に参議から中納言(中国風には黄門)へと昇ります。それが、政宗の得た最高官職でしたから、「仙台黄門」は没後も政宗を指す呼称として用いられたのです。

※本稿では仙台市博物館の学術研究機関たる立場から歴史上の人物名に敬称を付しておりません。

東日本大震災復興祈念 特別展

空海と高野山の至宝

8月27日(日)まで好評開催中!

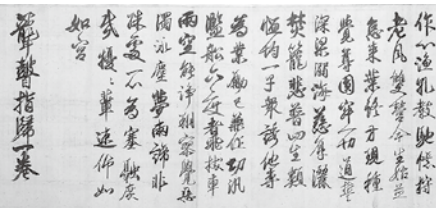
※現在は後期展示の期間です

- ◇観覧料: 一般:1,500円、大学生:1,200円、小・中・高校生:800円
- ※10名以上の団体は100円引き
- ※リピーター割引があります(使用済み半券提示で当日料金より100円引き。他の割引と併用不可)
- ※当日券は、ローソンチケット、チケットぴあ、セブンチケット、イープラスでもお買い求めいただけます。
- ◇休館日: 毎週月曜日(8/7は開館)
- ◇開館時間: 9時~16時45分(入館は16時15分まで)



国宝 八大童子立像のうち
聖光童子像 運慶作 金剛寺蔵(後期展示)

国宝 曹錕指歸一巻 弘法大師筆 金剛寺蔵(後期展示)



仙台市博物館 SENDAI CITY MUSEUM TEL:022-225-3074

仙台市博物館

検索